

令和5年度「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

委託先（ 高知県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	生徒が主体的・探究的に学ぶ人権教育をめざして
----------	------------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

当該校の生徒は、真面目で落ち着いた生活ができ、規範意識も高い。また、生活・学習アンケートにおいては、「授業での学習課題に、自分で積極的に取り組もうとしている。」の肯定的回答96%であり前向きに学習に取り組んでいる。そして、「自分の考えを先生や友だちに伝えることができる」の肯定的回答は82.3%であり、自分の考えを相手に伝えようとしている。しかし、学級の活動においては、自分のことはしっかり考えることができるが、相手のことを考えて行動するには至っていない。

また、人権学習については、かつては特設の時間を設定し、主に講義型で行っていたが、一昨年度より、人権教育のカリキュラムの見直しを図り、生徒自らが主体的に学習していけるように、グループごとに課題を設定し、その課題解決に向けた学習を総合的な学習の時間で実践してきた。しかし、総合的な学習の時間の特色を生かして人権教育を効果的に実施していくためには、生徒が主体的に学習する場面の効果的な設定や、生徒の活動に対する適切な助言等、工夫や改善が求められる点が存在する。

本調査研究では、上記の課題を解決するため、教師自らが、人権課題に関する認識や人権感覚を高め、生徒に寄り添い、生徒の成長を支えられる特色ある人権教育推進体制づくりに取り組むとともに、総合的な学習の時間を軸にしながら、教科・領域等と関連付け、より学習が深まるように教育課程全体を通したカリキュラムづくりと実践に取り組んでいく。このような取組を実践することで、同和問題をはじめさまざまな人権課題の解消に向け、生徒一人ひとりが主体者となり、『我がこと』として捉え、取り組む意欲や態度、自分や他者の違いを認め尊重し合う、豊かな人権感覚を育成することを目的とした。

○調査研究の概要

総合的な学習の時間を中心に教育活動全体における人権教育の位置付けを確認し、教科・領域等と関連付けた人権教育のカリキュラムづくりを行う。そのために、教職員が人権課題学習に関する研修や事前学習を行うことで、教職員一人ひとりの人権感覚を高める。また、教科等における人権課題学習と総合的な学習の時間における地域学習を結びつけ、生徒自らが、地域の中にある人権問題を見出し、調べ学習やインタビュー、地域の方の話などを通して主体的に学習に取り組む姿勢を養う。そして、地域にある人権課題について考え、課題解決に向けて自分事として捉えながら学習活動を行い、人権意識の高揚を図るカリキュラムづくりを行う。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

宿毛市立東中学校

○これまでの研究指定等の状況

令和4年度高知県人権教育研究推進事業

○学級数

各学年1学級、特別支援学級2学級 計5学級

○児童生徒数 (R. 6. 1. 4)

全生徒数：90名

○URL

<https://www.kochinet.ed.jp/sukumohigashi-j/index.html>

○指定理由

当校は、本年度、令和4年度高知県人権教育研究推進事業指定校として、人権教育の視点を明確に位置づけた総合的な学習の時間のカリキュラムづくりを行ってきた。職員間の連携や人権教育を行う上での協議などが十分ではなく、生徒の活動に対して適切な助言を行うことや、生徒が主体的に学習する活動をうまく作れていない場面もある。このような課題や研究の目的を達成するため、継続して取り組んでいく必要があり、今後、人権教育の視点を明確に位置付けた総合的な学習の時間のカリキュラムづくりの研究をさらに進めることで、子どもたちに人権とは何か深く考えさせるとともに、自分や他者の違いを認め、尊重し合う、豊かな人権感覚の充実を図りたいと考えた。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題 1 つに◎印を付与

①子供	○
②女性	
③高齢者	○
④障害者	○
⑤ <u>同和問題</u>	◎
⑥ <u>アイヌの人々</u>	
⑦ <u>外国人</u>	○
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 <u>ハンセン病患者等</u>	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他（災害と人権）	○

※②、⑧－１、⑧－２については計画書では、取り組む人権課題として選択していたが、総合的な学習の時間を核として人権教育を進めてきた当該校において、生徒が地域の課題として取り上げなかったため、今回は取り組んだ人権課題として扱わない。同様の理由でその他（災害と人権）を追加。

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

①総合的な学習の時間の、各学年のテーマを「地域のことを知ろう」「地域の発展を探ろう」「地域の中で私たちにできることを見つけよう」と設定し、生徒が地域の自然・文化・歴史・産業などから地域の良さに気づき、それらを調べていく中で、地域の人権課題を見出し、地域が抱えている人権課題を自分事と捉えながら、地域と連携し、課題解決に向けて取り組む姿勢を養うよう取り組んだ。

②総合的な学習の時間の中で、学習を通して人権課題を焦点化し、生徒が課題を正しく把握することで、課題解決に向けて情報を収集、整理・分析、まとめ、自分たちの考えを発表できるような授業づくりを行った。

③①②を通して、自分と他者の違いを認め、大切にし合える関係を築くことで、自尊感情や人権感覚を育むよう取り組んだ。

※高知県教育委員会及び宿毛市教育委員会の指導主事が適宜訪問し、指導・助言を行いながら、研究内容の充実を図っていった。

○実施方法

①教員研修

- ・人権教育に関する校内研修
- ・総合的な学習の時間を中心とした人権学習の確立に向けた校内研修を実施

②人権教育の視点を明確にした、総合的な学習の時間のカリキュラム作成

【1年】「地域のことを知ろう」

地域の自然や産業、農業について課題を設定し、情報収集を行った。地域について知ること、生きていくために知恵を絞ってつくりあげてきた産業や、国の施策によってつくられた産業があることを知ることができた。農業の実態などについて情報を収集し、そして、地域の学習と地域の人権課題を関連させ、地域のよさに生徒一人ひとりが気づいていけるように学習を深めていくことができた。

【2年】「地域の発展を探ろう」

地域の発展を探る中で、国・地方公共団体がどのようにかわり、どのような施策を進めることで地域住民の生活を豊かにしていったのかを知ることができた。また、施策遂行の過程で起こった人権問題や施策が地域にもたらした成果や影響について調べ、考えた。この学習をとおして、さまざまな人権課題の解決に向けて、主体者として考えていけるように、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめのプロセスを組み立て、人権課題に関する理解と思考の深化を図った。

【3年】「地域探究の中で私たちにできることを見つけよう」

- 1・2年と学習してきた内容をもとに、人権課題解決に向けて自分たちにできること

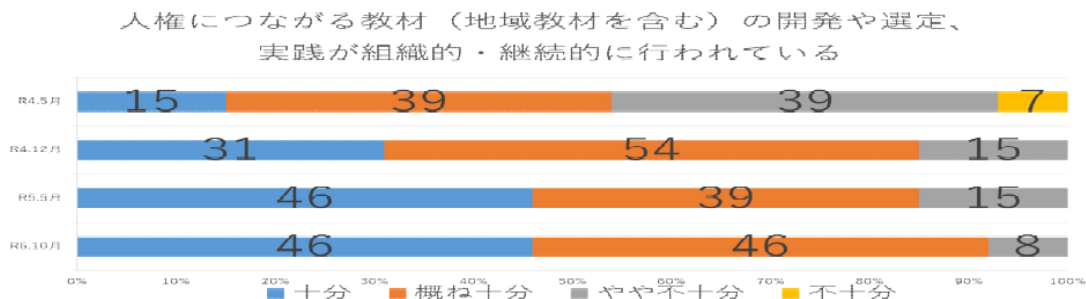
は何なのか考え、人権課題を『我がこと』として捉え、自分たちが地域とどうかかわり、地域で何ができるのかを討論し合い、私たちにできることを見つけていけるように、情報を収集するとともに、アンケートやインタビューなどを通して、人々の考えに触れ、人権課題の解消に向け、自分たちにできることを実践し、啓発を進めていった。

③授業研究・研究発表会

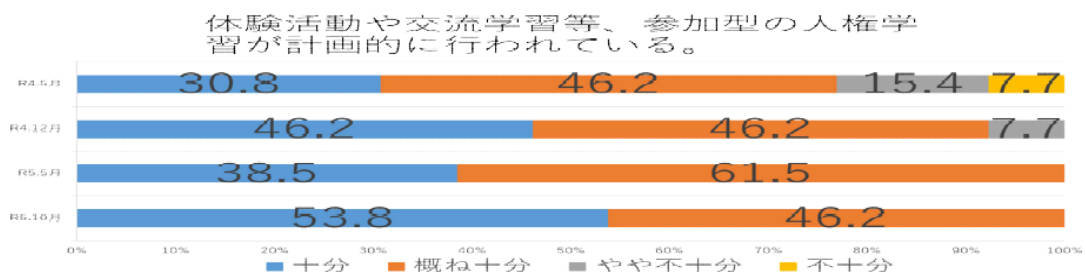
- ・年間を通して各学年1回の人権教育にかかわる総合的な学習の時間の授業公開を行った。
- ・11月の人権集会で各学年が1年間の人権学習の取組をまとめて発表した。
- ・新保真紀子先生による講演「地域と結ぶ人権学習～子どもたちにラブレターを書こう～」を開催した。

4. 検証・評価・改善・普及

・人権が尊重された学校づくりチェックシート(教職員対象)の分析結果より

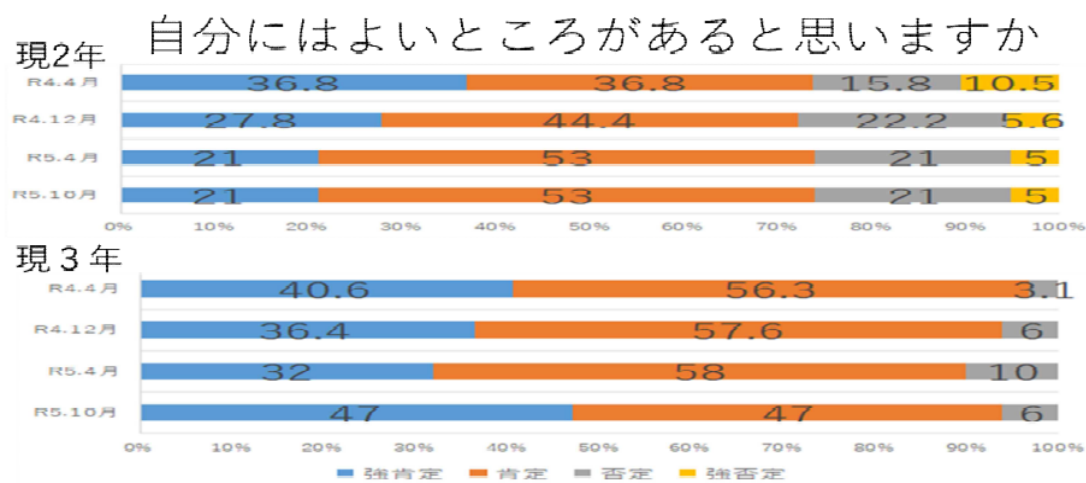


教職員対象の人権が尊重された学校づくりチェックリストでは、アンケートをとるごとに全体的な肯定的意見の割合が高くなってきている。「人権につながる教材（地域教材を含む）の開発や選定、実践が組織的・継続的に行われている」という項目では、肯定的意見の割合が増えている。要因としては、生徒の調べ学習に対し、学年団で対応することで、組織的な取り組みを行うことができ、教材の開発やフィールドワークといった新たな取り組みの効果があつたと考えられる。一方で、地域の特色を活用しきれていない所もあるため、今後は地域に足を運びながら、生徒の実態に応じた対応ができるように教員がある程度の知識を事前に持つておく必要がある。

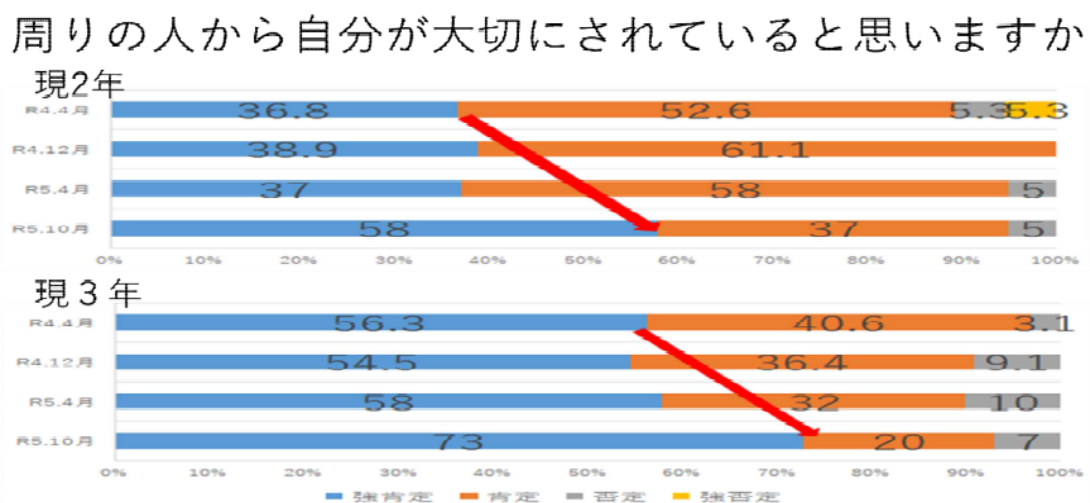


「体験活動や交流学习等、参加型の人権学習が計画的に行われている」という項目では、アンケートを取るごとに数値が良くなっていった。これは、各学年が総合的な学習の時間の中で、生徒から出てきた課題を解決するために、フィールドワークを行い、アンケートを取るなど、アクティブな授業展開が行われた成果であると考えられる。

・人権アンケート（生徒対象）の結果より ←次ページの文頭へ移動



「自分にはよいところがあると思いますか」という項目では、大きな変化はないが、2年生では、強肯定の割合に減少がみられた。これは、私たち教員が生徒が活躍する場面を設定しきれていないことから、生徒一人ひとりのよさを見出す機会を十分にとれていないからではないかと考えられる。一方3年生では、強肯定の割合に増加がみられた。これは、3年生となり、学校行事や部活動など様々な場面で後輩を引っ張りながら取り組むことで認められる場面が多くあったのが要因だと考えられる。



「周りの人から自分が大切にされていると思いますか」という項目では、2年間で強肯定の割合が大きく高まった。要因としては、人権課題について学習していく中で、お互いを認め合うことを学習することで、総合的な学習の時間だけでなく、他の教科や生活などで、周りの人を尊重する姿が見られるようになったことがあげられる。また、教員が生徒一人ひとりを認める声掛けなども増えてきたと感じている。このように自分以外の人が他者を大切にしている姿を見ることで、自分も大切にされているという意識が芽生えたのではないだろうか。

【3側面ごとに設定した評価指標に基づく変容】

・知識的側面：「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」

事業開始時：肯定的意見 99%⇒事業終了間際：肯定的意見 100%

【分析】指定事業開始時には、否定的意見がわずかに見られた。しかし、指定事業終了時には、100%と全校生徒がいじめは、どんな理由があってもいけないことだと理解できた。人権教育を通して、他者を尊重することの重要性を理解することができたからではないかと考える。ただし、心無い言葉を発する生徒がいるなど、まだまだ課題があるので、これからも人権教育を行いながら生徒の人権感覚を磨いていきたい。

・価値・態度的側面：「人の役に立つ人間になりたい。」

事業開始時：肯定的意見 99%⇒事業終了間際：肯定的意見 99%

【分析】年間を通して、肯定的意見が高水準となっている。この結果を受けて我々教員が、生徒が「誰かの役に立てる」機会を作りながら、生徒の思いに応えられるような取組をしかけていく必要がある。

・技能的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」

事業開始時：肯定的意見 69%⇒事業終了間際：肯定的意見 68%

【分析】肯定的意見の上昇が見られなかった要因として、学習の中で、地域を変えていくという意識を生徒に向けられなかったからではないかと思う。ただ、生徒自ら地域にフィールドワークを行いたいという意見が出だしたため、地域への関心をもちながら今後上昇していくのではないかと考える。

○不登校生徒数が事業開始時には全校の8%程だったが、事業終了間際には、全校の2%程まで減少した。

【分析】教員が授業などを通して、人権教育を行うことにより、他者理解につながり、1つの事柄に捉われず、多様な考えを持ちながら、不登校生徒に接することができた。また、学級に入りにくい友達に積極的に関わり、学級に入った際には積極的に声をかけ合いサポートするなど、生徒同士が助け合いながら、学級づくりができる人間関係が育まれてきたことも要因だと考える。

○総合的な学習の時間において生徒の自尊感情や人権感覚を育む学習カリキュラムが構築された。しかし、カリキュラム通りに学習を展開できない時があったため、より緻密なカリキュラムを作成する必要がある。

○主体的・探究的な学習を通して、人権課題の理解を深め、自分との関わりを見出し、解決に向けて主体的に考え取り組む意欲と態度を高めることができた。しかし、内容によっては、生徒の主体性を十分引き出すことができなかったため、教員が事前学習を行い、見聞を広げておくことが必要であった。

○総合的な学習の時間における地域の人々との交流や、認められる声かけ、励ましをと
おして、生徒の自尊感情を高めることができた。しかし、学年によって地域学習の取組
に差が出てしまったため、生徒自らが課題を見つけ、課題解決をするためにどのように
地域と関わっていくのか計画し、助言していく必要があった。

○人権課題や解決に向けて取り組む人々との出会いをとおして、自他の違いや大切さを
認める人権感覚が育まれることで、互いを尊重し合う関係づくり、安心して学べる集団
や学年づくりに繋げることができた。一方で、学級の中では、心無い言動や行動が見ら
れることがあるため、学習が授業だけではなく、自分の生活に活かされるように、自分
事として捉えられる授業を展開していかなければならない。

○本研究をとおして、地域学習と人権学習の関連の中で、学習を他人事から自分事へと
変化させることができ、より身近に感じながら学習に取り組む生徒たちの姿勢が見られ
た。今後も地域学習と人権学習を通し、心のふれ合いの大切さに気づき、一人一人が大
事にされ、絆を強めることができる地域をめざし、郷土を愛し、誇れる子どもたちの育
成に取り組んでいく。

1 学年 人権教育年間指導計画

中学校		1 学期	2 学期	3 学期
各教科	国	空を見上げて（平和）	大人になれなかった弟たちに（平和）	
	社	発展途上国の都市と貧困（子ども・外国人）	中世に生きた人々（同和問題）	世界から見た日本のすがた 身近な地域の調査
	数	方程式一何個集まったかなー（子ども）		水の節約を考えよう
	理	身近な生物の観察		地震
	音			アジアの民族音楽（外国人）
	美		和風を味わう（外国人）	アジアの多様な造詣（外国人）
	保体			性機能の成熟
	技・家 外	家庭の仕事（女性） 国際フードフェスティバル（外国人）	情報モラルと知的財産（インターネット） アジアの食べ物（外国人） 呼称（女性）	
道 徳		ヨシト（いじめ）	ある日のバッテリーボックス（いじめ）	いじめ撲滅宣言
間 学 総 習 合 的 の 時 な		・テーマを決め、地域学習を行いながら、人権課題について考え、調べ学習を行う。	・地域学習を行いながら、人権課題について考え、調べ学習やフィールドワークを行う。	・学習したことをまとめ、来年度に取り組む人権問題について考える。
特別活動	学級活動	学級開き 仲間との出会い 自分を語ろう	自己理解 他己理解	進路について考える
	生徒会活動	強調旬間	人権週間	
	学校行事	入学式 宿泊体験学習	運動会 文化祭 避難訓練	避難訓練 卒業式
特 設		人権意識アンケート 人権集会 同和問題学習	人権意識アンケート 人権集会 同和問題学習 インターネットによる人権侵害について	

5. 人権教育に係る年間指導計画

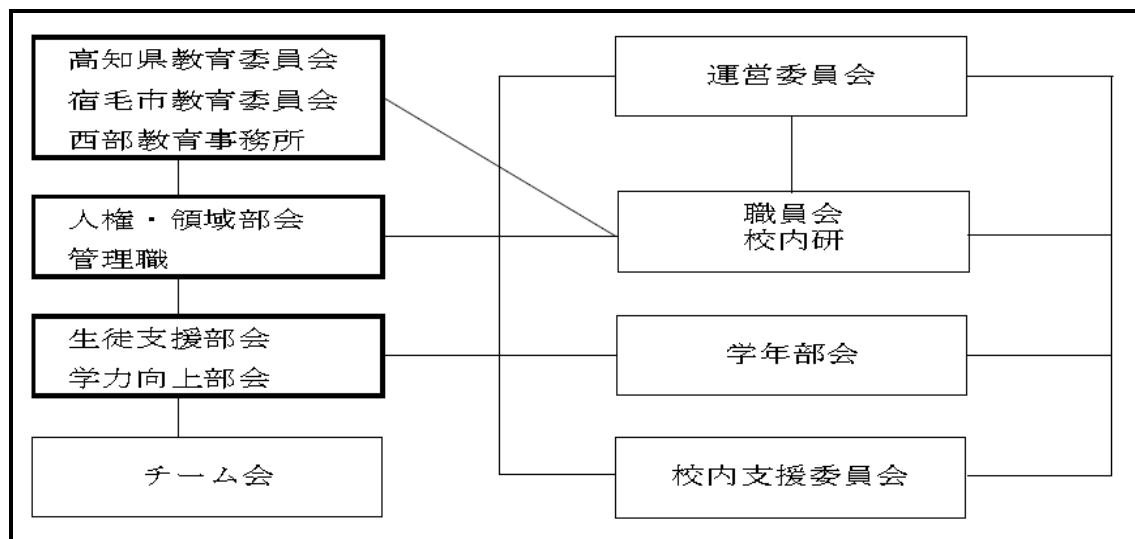
2 学年 人権教育年間指導計画

中学校		1 学期	2 学期	3 学期
各教科	国		字のない葉書（戦争）	走れメロス（友情）
	社	女性の地位向上と教育、婦人運動家（女性） 世界の中の日本（外国人）	資本主義社会と子どもの労働（子ども） 解放令とその後の社会（同和問題）	近代の幕開け（同和問題・外国人）
	数			生活と数学＜点字を読んでみよう。 みんなで使える施設を考えよう＞（障害者）
	理		生物の進化	
	音			日本の伝統音楽（同和問題）
	美			日本の美意識
	保体			自然災害に備えて（災害）
	技・家	家族のための食事づくり	情報モラル（インターネット）	家庭の中の危険箇所（災害）
	外		If You Wish to See a Change（平和）	A shelter for Pet Animals So Many Countries , So Many Customs（外国人）
道 徳		君、想像したことある？（いじめ）	路上に散った正義感（犯罪）	最も悲しむべきものは、病めることでも貧しい ことでもなく（平和）
間 学 総 習 合 的 の 時 な		・テーマを決め、様々な人権課題を調べ、地域 にどのような課題があるのか調べる。	・地域と人権課題がどのように関わっているの か探る。	・学んだことをまとめ、人権課題を解決するた めに、地域に向けてどのようなことができる か考える。
特 別 活 動	学級活動	自己理解	相互理解（上手なコミュニケーション）	自分の進路を考える
	生徒会 活動	強調旬間	人権週間	
	学校行事	入学式 修学旅行	運動会 文化祭 避難訓練	避難訓練 卒業式
特 設		人権意識アンケート 人権集会 同和問題学習	人権意識アンケート 人権集会 同和問題学習 インターネットによる人権侵害について	

3 学年 人権教育年間指導計画

中学校		1 学期	2 学期	3 学期
各教科	国	蝉の声（戦争）高瀬舟（命）	故郷 挨拶（戦争）	わたしを束ねないで
	社	世代を超えたつながりへ（高齢者） 理解し尊重し合うこと（外国人）	みんなで育てる人権意識（新しい人権） 法の下での平等とは（女性・障害者）	社会保障の充実のために（高齢者）ハンセン病 （HIV 感染者等）司法権（犯罪被害者）
	数			地球一周分と歩いた伊能忠敬（測量） 人の仕事の偉大さ
	理	生物の成長とふえ方		暮らしを支える科学技術
	音			ポピュラー音楽（外国人）
	保体	性はどう向き合うか（女性）		性感染症の予防・エイズとは（HIV 感染者等）
	技・家	幼児の心身の発達と特徴（子ども）	保育所訪問（子ども）	
	外	Faithful Elephants	What is the most important things?（子ども）	Mother Teresa（子ども・外国人）
道 徳		スタチの苗木（職業）	卒業文集最後の二行（いじめ）	ピヨ子（インターネット）
学 習 の 時 間		・ テーマを決め、地域の人権課題を解決するために何ができるのか調べる。	・ 地域の人権課題を解決するためにできることをまとめ、取り組んでいく。	・ 地域と人権課題について調べたことや取り組みをまとめ、自分たちの将来に活かすために何ができるか考える。
特別活動	学級活動	・ 正しいマナーを身につけよう ・ 協力性・共感性を身につける	他己理解を深める 高め合う学級づくり	自分を表現しよう（未来への展望）
	生徒会活動	強調旬間	人権週間	
	学校行事	入学式	運動会 文化祭 避難訓練	避難訓練 卒業式
特 設		人権意識アンケート 人権集会 同和問題学習	人権意識アンケート 人権集会 同和問題学習 インターネットによる人権侵害について	

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



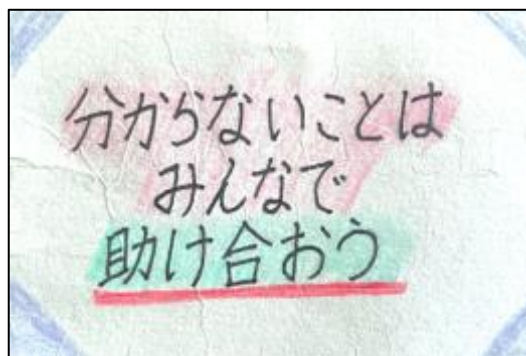
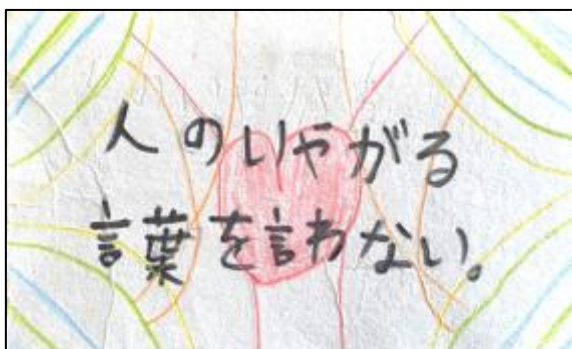
○関連資料

3 1 高知県

5 3 宿毛市立東中学校



職員対象のフィールドワーク



生徒たちに人権について意識し、考えてもらうための「人権ワッペン」の取組